

## 平成22年度 島本町水道事業報告書

### 1. 概 況

#### (1) 総括事項

##### ① 給水状況について

本年度における給水人口は、3万136人（前年度2万9,482人）で、前年度に比べて654人の増加となり、行政区域内人口も3万96人（前年度2万9,443人）で、前年度に比べて653人増加しています。

一日最大配水量は、前年度に比べて117m<sup>3</sup>（1.1%）減の10,318m<sup>3</sup>、一日平均配水量は、前年度に比べて25m<sup>3</sup>（0.3%）増の9,031m<sup>3</sup>となりましたが、前年度同様1万m<sup>3</sup>を大きく割り込んでいます。また、年間総配水量は、329万6,230m<sup>3</sup>（前年度328万7,287m<sup>3</sup>）で前年度に比べて8,943m<sup>3</sup>（0.3%）の増加、年間有収水量は、309万4,173m<sup>3</sup>（前年度306万1,451m<sup>3</sup>）で前年度に比べて3万2,722m<sup>3</sup>（1.1%）増加しています。なお、有収率は、前年度より0.8ポイント増加し93.9%となりました。水需要につきましては、住宅開発による給水人口の増加により年間総配水量は増加しておりますが、節水意識の浸透や節水器具の普及により、一人当りの平均配水量は減少傾向が続いています。

##### ② 建設改良事業について（税込み）

拡張事業では、平成19年度から平成22年度（繰越事業含む）までの4カ年で、大藪浄水場ろ過池更新工事6億4,987万6,500円を実施しておりますが、同工事に伴う切梁・腹起設置工事の追加により本年度中に完了しなかったため、本年度までの事業費4億9,003万4,000円を除く分を平成23年度に繰越しました。また、大藪浄水場ろ過池更新工事に伴う埋蔵文化財発掘調査992万2,500円、大藪浄水場ろ過池更新工事に伴う切梁・腹起設置工事2,541万円を実施、大藪浄水場ろ過池更新工事に伴う道路拡幅工事862万500円は東日本大震災の影響により資材の入手が困難となり本年度中に完了しなかったため、本年度事業費231万円を除く分を平成23年度に繰越しました。

また、施設整備事業では、山崎送水管布設替工事1,048万9,500円、大藪浄水場送水ポンプ1・2号整備工事887万2,500円、高速凝集沈殿池1・2号制御盤更新工事700万6,650円、大藪浄水場及び外部施設各種計測機器更新工事879万2,700円、

府道柳谷島本線給配水管布設替工事198万4,500円、PAC貯蔵タンク更新工事227万2,200円、府道柳谷島本線給配水管布設替実施設計業務290万8,500円、高浜配水管布設替外実施設計業務299万2,500円、高浜及び桜井台公共下水道関連給配水管布設替実施設計業務1,296万7,500円を実施しました。

### ③経営について

#### イ 収益的収支（税抜き）

収入総額は、6億7,722万5,658円（前年度対比6,898万7,647円、11.3%増、以下（ ）内は、前年度対比の増減額及び増減率）、支出総額は、5億4,210万9,715円（550万6,234円、1.0%増）で当年度純利益は、1億3,511万5,943円（6,348万1,413円、88.6%増）となりました。前年度繰越利益剰余金を含めると、3億1,809万4,400円の黒字となっています。

主な収入としましては、営業収益で、水道料金5億4,024万247円（△786万510円、1.4%減）、受託工事収益3,451万1,031円（3,328万6,485円、2,718.3%増）、営業外収益で負担金6,869万5,253円（5,876万1,903円、591.6%増）、下水道受託収益1,046万5,206円（73万4,869円、7.6%増）、他会計繰入金（退職に伴う一般会計負担分他）342万8,358円（△2,608万2,304円、88.4%減）です。

主な支出としましては、営業費用で人件費（退職給与金を除く）7,629万9,005円（△17万4,845円、0.2%減）、受水費2,662万2,180円（△508万6,772円、16.0%減）、減価償却費1億3,618万2,628円（△16万7,698円、0.1%減）、固定資産除却費6,453万7,801円（5,924万3,213円、1,118.9%増）、営業外費用で支払利息707万8,071円（452万4,789円、177.2%増）、他会計繰出金（一般会計職員退職に伴う水道会計負担分）646万9,481円（△3,306万4,124円、83.6%減）です。

#### ロ 資本的収支（税込み）

収入総額は、3億6,423万7,088円（2億1,109万7,378円、137.9%増）、支出総額は、2億6,319万3,162円（△1億4,827万2,846

円、36.0%減)で、差引1億104万3,926円の資金余裕が生じました。

主な収入としましては、大森浄水場ろ過池更新工事に伴う企業債2億1,200万円(1億1,630万円、121.5%増)、加入金1億2,472万円(1億660万円、588.3%増)、工事負担金1,472万2,400円(△2,251万8,600円、60.5%減)、特別開発負担金1,145万円(1,069万円、1406.6%増)、統合水道事業元金償還金の繰入金として他会計出資金134万4,688円(2万5,978円、2.0%増)です。

主な支出としましては、拡張事業費1億8,101万7,171円(△1億4,042万379円、43.7%減)、施設整備事業費5,937万2,250円(△649万3,200円、9.9%減)、企業債償還金601万5,870円(△250万5,550円、29.4%減)です。

これらの結果、本年度末における資金余裕額は、前年度より4億4,171万1,838円増の17億4,070万5,396円となりました。また、引当金につきましては、修繕引当金では19万9,298円を取崩し、4,775万5,086円、退職給与引当金は前年度と同額の、1億6,753万8,134円であり合計で2億1,529万3,220円となりました。この結果、差引き正味運転資金は前年度より4億4,191万1,136円増の15億2,541万2,176円となっています。

以上のとおり、平成22年度は昨年度に比べ純利益が大幅に増加いたしましたが、その要因としまして、平成23年1月請求分からの水道料金改定により営業収益の給水収益が減少したものの、大規模集合住宅建設に伴いその他営業収益、営業外収益で負担金が増加となったこと、及び営業外費用で退職に伴う他会計繰出金が減額となったことによるものです。

今後も住宅開発等による給水人口の増加は予想されるものの、需要者の節水意識の浸透や節水器具の普及により、水需要は依然として減少傾向にあることから、給水収益の伸びが見込めない状況にあり、更なる企業経営の健全化と、より一層の効率的な事業運営を図りながら安全で安心な水の供給に努めます。